

カンキツの開花期に訪花するハナムグリ亜科の発生状況

コアオハナムグリは、カンキツの開花期に合わせて訪花し、吸蜜時に頭部や爪で子房の表面に傷をつけるため、訪花性害虫として知られている。

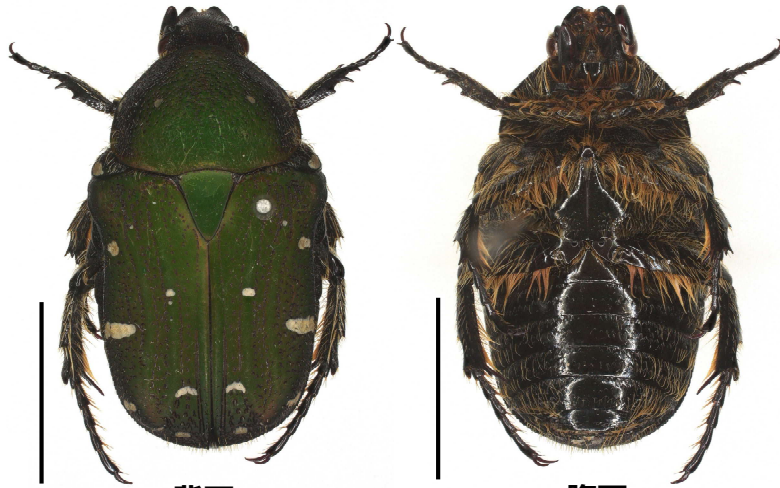
近年、訪花性害虫による被害の増加が懸念されており、コアオハナムグリ以外のハナムグリ類が増加している可能性が考えられることから、カンキツに訪花するハナムグリ亜科の種構成について調査した。

(場所) 果樹研究センター内圃場

(調査期間) 令和7年5月3日～令和7年5月31日

コアオハナムグリ

※スケールバー：5mm



背面

腹面

体長：12.6～15.2mm

背面：濃緑色から濃褐色、まれに黒色

腹面：つやのある黒色



背面の色が違う個体(左3頭)と白斑がない個体(右)

その他のハナムグリ亜科



ナミハナムグリ

体長：16.0～19.2mm

アオハナムグリ

体長：15.6～20.2mm



アオヒメハナムグリ

体長：13.3～16.5mm

クロハナムグリ

体長：12.7～15.2mm

訪花したハナムグリ亜科の種構成

ナミハナムグリ
2.7%(66頭)

その他：0.8%(19頭)

- ・アオヒメハナムグリ：0.54%(13頭)
- ・クロハナムグリ：0.21%(5頭)
- ・アオハナムグリ：0.04%(1頭)

コアオハナムグリ
96.5%(2330頭)

(全体：n = 2415頭)



コアオハナムグリを訪花（左上・左下）と傷果（右上）及び子房部の傷（右下）の状況

当センターにおいては、コアオハナムグリが加害の主体であり、本種の防除が重要と考えられる。その他のハナムグリ亜科については、発生生態や薬剤に対する感受性が異なる可能性が考えられるため、今後の検討課題としたい。